

第Ⅵ章 ま と め

本報告書は、昭和52年に発見し、53年度に調査した1号墳をはじめ、早くから調査がなされた所とその周辺の地区、54年度調査区の東の地区の報告である。56年度調査区は2箇所に分かれたため調査地区の違いが構の違いに表われ、毎年調査は新たな発見が相つぎ、遺跡の広がりや性格の一端がつかめるとともに新たな疑問も生じた。

f1地区(1号墳周辺地区)は53年度に1号墳周辺地区の上層、中層を調査し、56年度にf1地区の全体の調査を行なった。その結果竪穴住居跡19棟、古墳・墳墓25基、掘立柱建物跡9棟、中世墓52基(内火葬墓51基)、水田跡2層などを検出した。この地区は55年度調査区の南西で切れていた黒砂が再び現われ、南側で湿地帯に移行しており、砂丘地の地形をよく表わしている。特に砂丘地の後背湿地と思われる南側の湿地帯との境はたえずそのときの種々の状態で動いていたことがわかった。

g地区は54年度調査地区の東にあたり、54年度に検出した古墳時代の住居跡群、墳墓群の続きが検出された。検出された主な遺構は住居跡18棟、掘立柱建物跡3棟、古墳墳墓20基などである。今年度の調査は集落の核となる大型の建物跡(11I地区SB40)を発見したことであろう。これらの建物は地形的にはL字状の丘陵(17K~17D, 17D~9B)に囲まれる平坦地にあり(北と東の広がりとはつかめていないが)この他にも他では見られない特異な掘立柱建物跡などがあることなどから集落の中心部と推定することができた。また鉄剣型銅剣、多数の銅鏃や素文鏡など多種多様な祭祀用具がこの集落で用いられたことが今までにわかっていたが、SI127出土の銅鐸はこの集落の祭祀用具の多様性、あるいは段階的なものを現わしているといえよう。

f1地区で検出された弥生時代前期の玉作り工房跡はただ1棟だが、当時の玉作り技法のほとんどを知ることができ、玉作り技法の原形を見ることができた。

毎年多数の遺構を調査し、数多くの遺物を掘り出して調査は進むものの遺構・遺物の多さに発掘の報告自体も充分できないのは残念である。本書は発掘調査・整理にたずさわる方々のおしみなない協力の成果であり、ここに感謝の意を表したい。

調 査 関 係 者 名 簿

財団法人鳥取県教育文化財団

常務理事 木村 耕造（昭和55年12月1日退職）

平木 安市

事務局長 古町 政春（昭和54年1月1日退職）

春田 明

次 長 加島 俊明

埋蔵文化センター

次 長 田中幸次郎

中部埋蔵文化財調査事務所

所 長 米原 幸正

調 査 員 田中 精夫・影山 和雅・久保 穰二郎・西村 彰滋・中村 徹

（以上昭和53年度調査員）

清水 真一・西村 彰滋・笹尾 千恵子・大賀 靖浩・福嶋 慶純

景山 俊邦・山田 宣彰・入川 泰樹

中村 徹・津川 ひとみ・坂本 敬司・長岡 充展・森原 陽子

大谷 増実

近藤 滋・影山 和雅・門脇 豊文・南前 孝明

（以上昭和55年度調査員）

西村 彰滋・笹尾 千恵子・大賀 靖浩・福嶋 慶純 景山 俊邦

園 俊朗・高口 勝人・賀須井 智・野島 珠美

国田 修二郎・村川 裕紀

（以上昭和56年度調査員）

西村 彰滋・笹尾 千恵子・大賀 靖浩・福嶋 慶純・賀須井 智

野島 珠美・河田 浩介・国田 修二郎・名越 智津子

（以上昭和57年度調査員）

調査指導 故国田 一夫（羽合町文化財保護委員長）

松本 常世・安達 幸範・蔵本 知純（羽合町中央公民館）

県文化課・県埋蔵文化財センター

協 力 鳥取県教育委員会・羽合町教育委員会・羽合町中央公民館・鳥取県土木部

下水道課・倉吉土木出張所下水道課・日本下水道事業団天神川出張所・熊

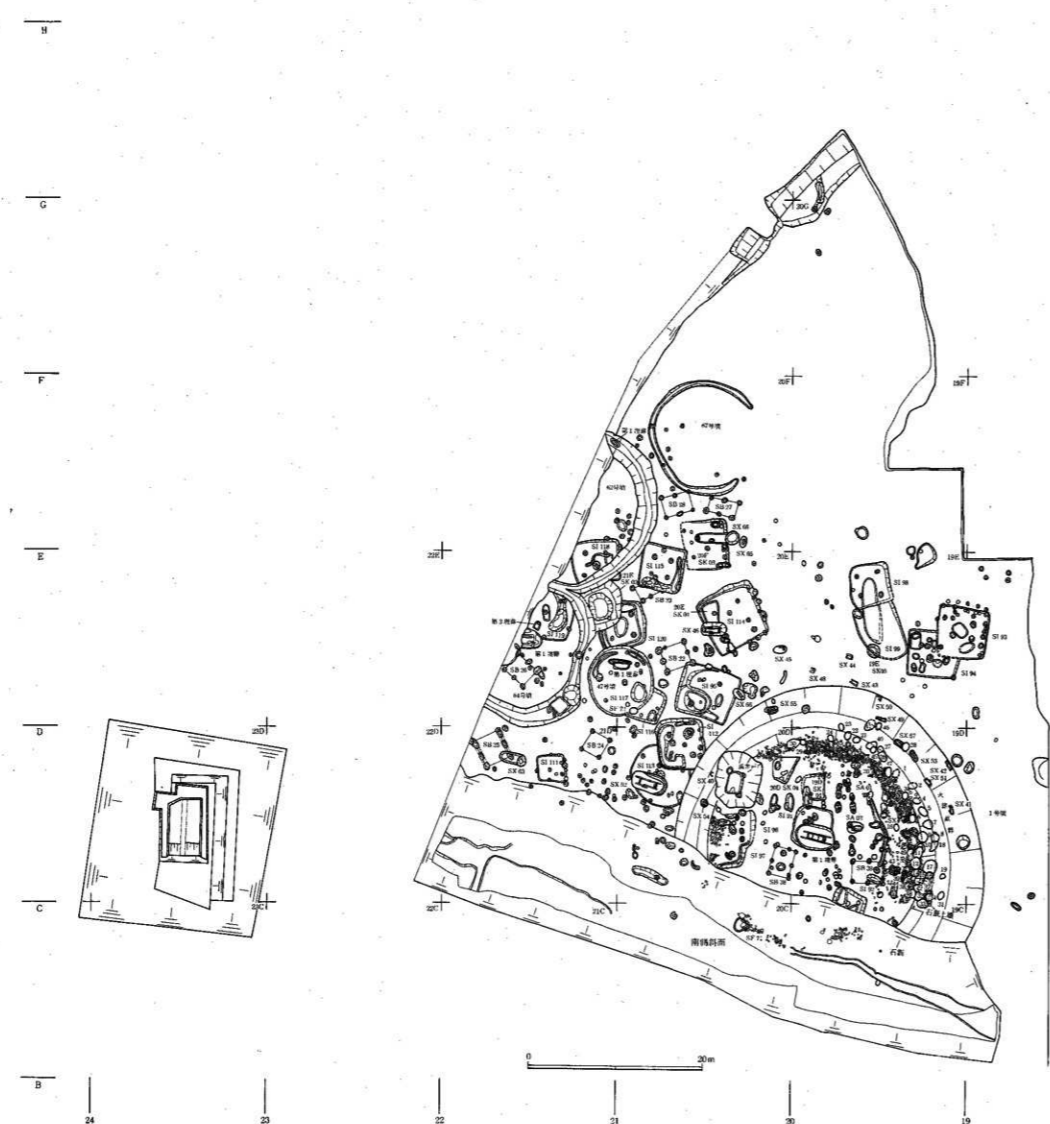
谷組・大成建設・西松建設・浅野建設・県立倉吉工業高等学校

内務作業員 佐々木 良枝・鹿田 里美・横山 敦子・鈴木 恵子・松本 由香里
福井 香苗・廣芳 珠枝・中本 里美・大島 美紀子

(以上昭和57年度)

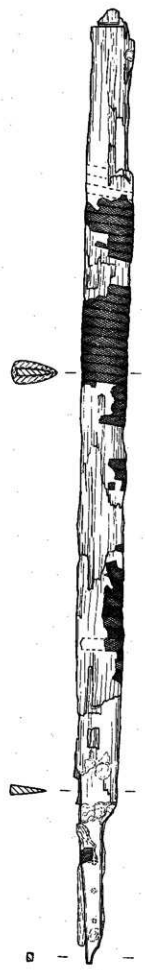
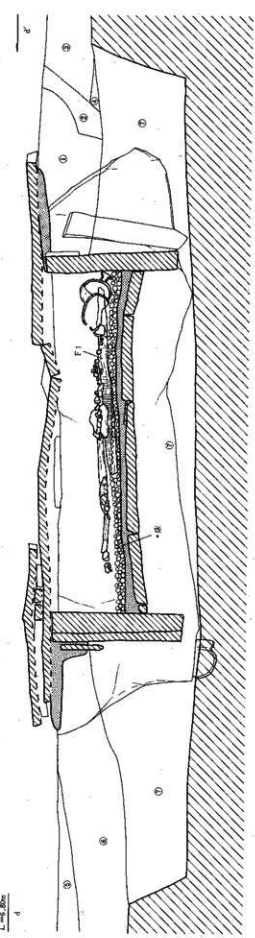
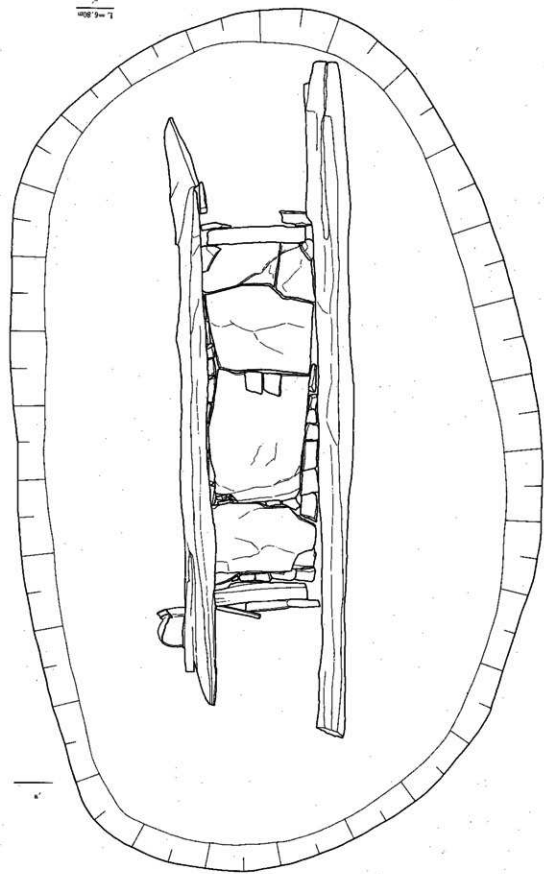
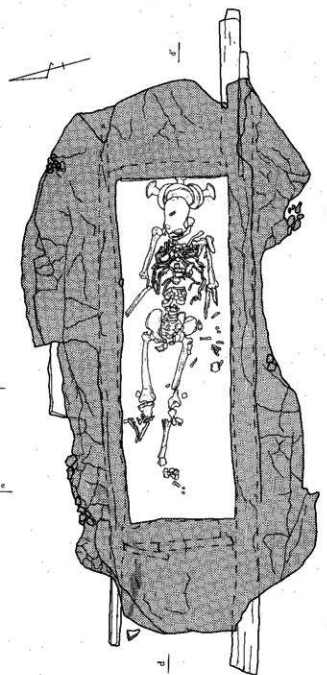
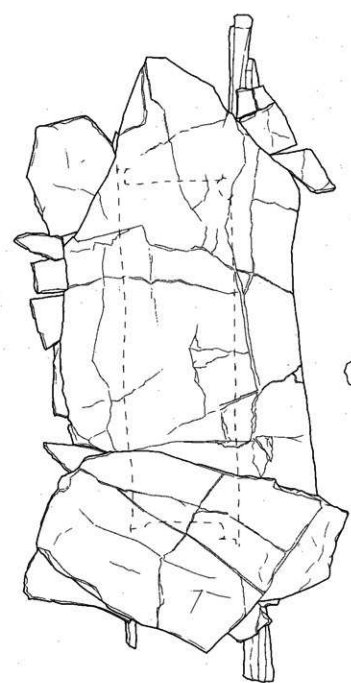
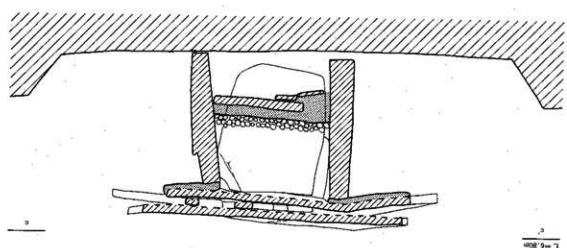
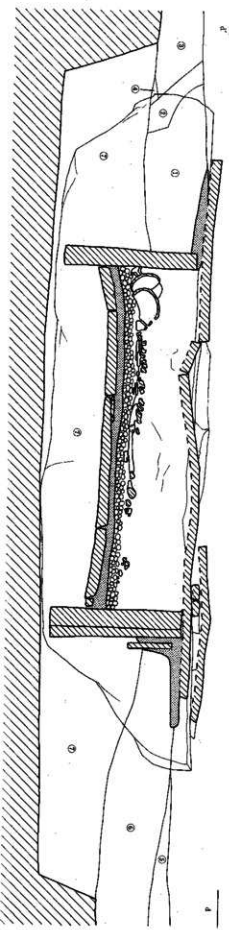
長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅱ
(本文編)

発行日 1983 (昭和58年) 3.
発行者 財団法人鳥取県教育文化財団
〒680 鳥取市扇町21
鳥取県社会教育福祉会館内
TEL (0857) 26-0920
印刷 (株) 矢谷印刷所
〒680 鳥取市幸町96番地



- 遺構略行表
- SA 橋河
 - SB 縄文柱礎物跡
 - SD 溝状遺構
 - SF 井戸跡
 - SP 火跡
 - SI 埴師/埴師跡
 - SK 土庫
 - SP 特殊ピット
 - SR 溝状遺構
 - SX 古塚・塚・石積層
 - SY 石積層
 - SXA 南朝時代の石積層
 - SXY 後中世時代の石積層
 - SZ 方形周溝状遺構

付図1 長瀬高浜遺跡遺構図 (S=1/400)



- 粘土
- ① 灰褐色砂 (暗褐色砂状混入)
 - ② 暗褐色砂 (灰褐色砂 +)
 - ③ 暗褐色砂 (黄褐色砂 +)
 - ④ 黄褐色砂 (灰褐色砂 +)
 - ⑤ 暗褐色砂
 - ⑥ 黄灰色砂 (黑褐色砂少量混入)
 - ⑦ 暗褐色砂

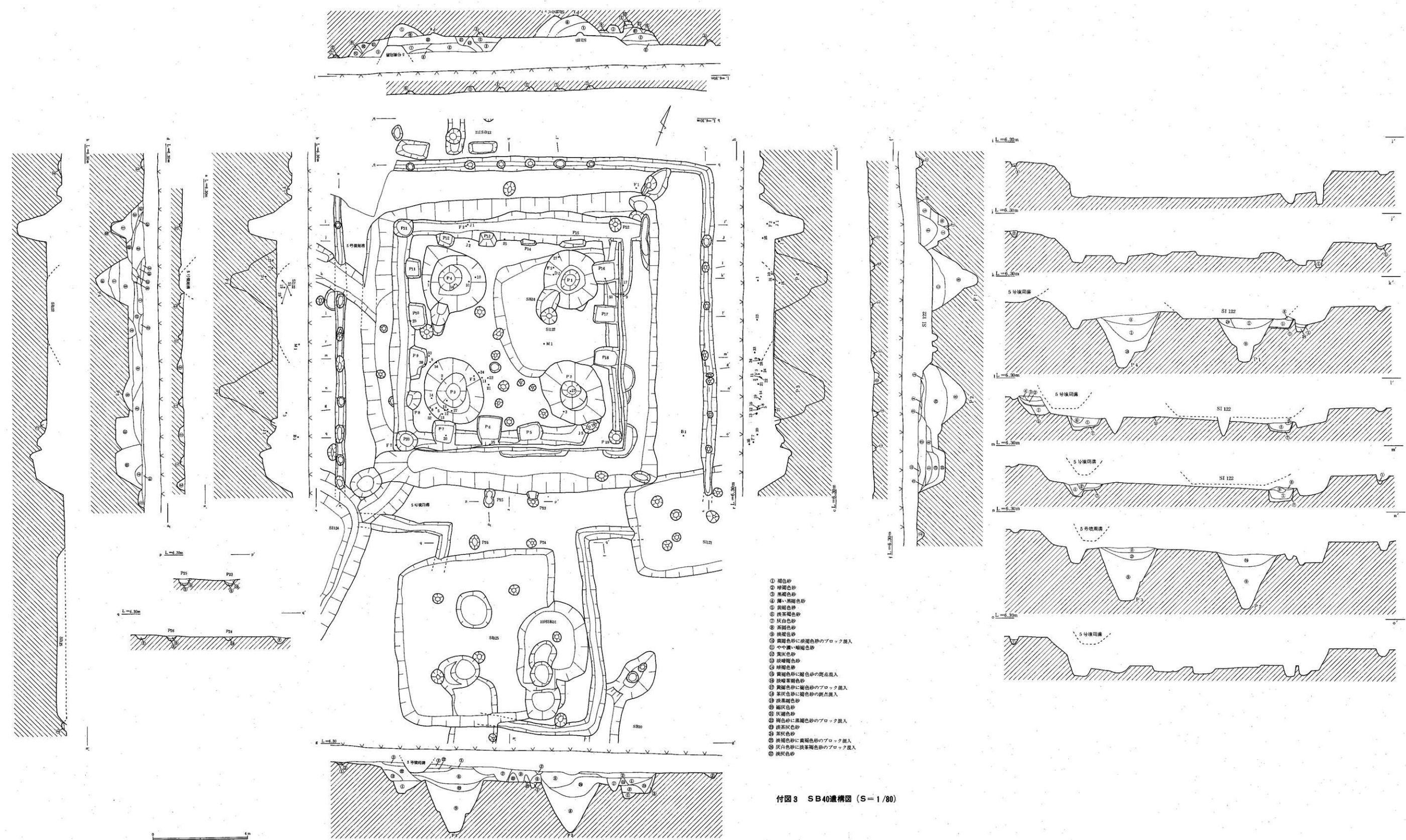
L=0.8m

L=0.8m

0 1m

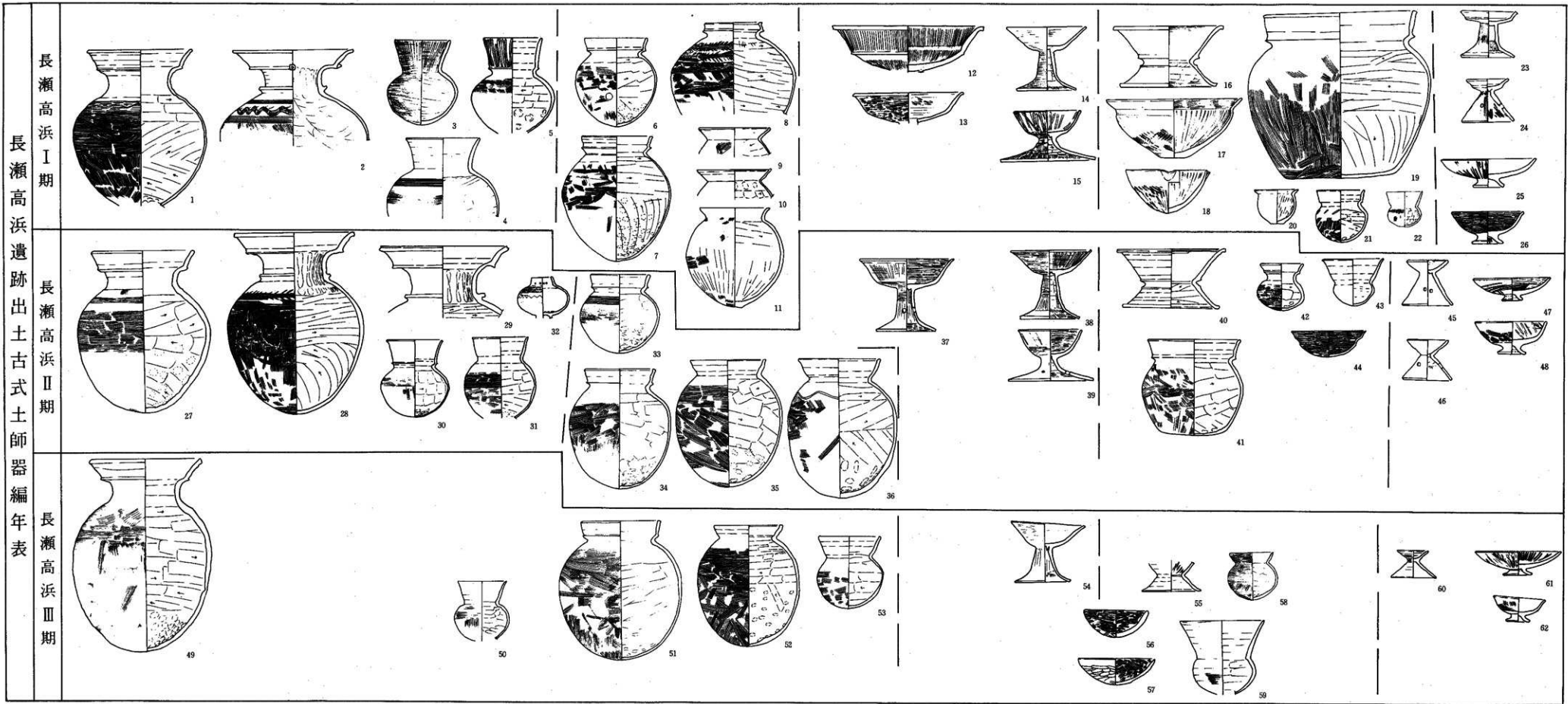
0 10m

付图2 1号墳第1埋葬施設遺構図 (S=1/20)、遺物図 (S=1/4)



- ① 褐色砂
- ② 暗褐色砂
- ③ 黒褐色砂
- ④ 薄・黒褐色砂
- ⑤ 黄褐色砂
- ⑥ 淡茶褐色砂
- ⑦ 灰白色砂
- ⑧ 茶褐色砂
- ⑨ 淡褐色砂
- ⑩ 黄褐色砂に褐色砂のブロック混入
- ⑪ やや濃い・暗褐色砂
- ⑫ 黄灰色砂
- ⑬ 淡暗褐色砂
- ⑭ 暗褐色砂
- ⑮ 黄褐色砂に褐色砂の斑点混入
- ⑯ 淡暗茶褐色砂
- ⑰ 黄褐色砂に褐色砂のブロック混入
- ⑱ 茶灰色砂に褐色砂の斑点混入
- ⑲ 淡黒褐色砂
- ⑳ 暗灰色砂
- ㉑ 灰褐色砂
- ㉒ 褐色砂に黒褐色砂のブロック混入
- ㉓ 淡茶灰色砂
- ㉔ 茶灰色砂
- ㉕ 淡褐色砂に黄褐色砂のブロック混入
- ㉖ 灰白色砂に淡茶褐色砂のブロック混入
- ㉗ 淡灰色砂

付図3 SB40遺構図 (S=1/80)



使用上出土遺構名（土器番号は報告書Ⅲで使用したものである）

1	S 161・Po1	6	S 161・Po2	11	S 169・Po87	16	S 169・Po133	21	S 133・Po11	26	S 169・Po119	31	S 148・Po2	36	S 170・Po4	41	S 134・Po12	46	S 112・Po19	51	S 110・Po5	56	S 141・Po15	61	S 151・Po5
2	S 169・Po5	7	S 169・Po16	12	◆・Po94	17	◆・Po146	22	S 143・Po5	27	S 140・Po1	32	S 142・Po3	36	S 137・Po9	42	S 111・Po4	47	S 105・Po31	52	S 151・Po2	57	S 151・Po6	62	S 141・Po2
3	◆・Po15	8	◆・Po83	13	◆・Po93	18	◆・Po145	23	S 169・Po123	28	S 112・Po1	33	S 140・Po7	38	S 105・Po27	43	S 137・Po1	48	S 137・Po10	53	S 110・Po1	58	S 141・Po3		
4	◆・Po14	9	◆・Po89	14	◆・Po96	19	S 133・Po18	24	◆・Po125	29	S 105・Po2	34	S 105・Po23	39	S 134・Po14	44	S 132・Po19	49	S 108・Po1	54	S 108付近出土	59	S 106・Po1		
5	S 166・Po1	10	◆・Po88	15	S 158・Po9	20	S 169出土	25	◆・Po122	30	S 132・Po2	35	S 137・Po6	40	S 105・Po36	45	◆・Po15	50	S 106・Po2	55	S 121・Po27	60	S 125・Po40		

付図4 長瀬高浜遺跡古式土器編年表